



## 愛川ふれあいの村 12月の風景

# 平成26年12月 自然のたより

12月に入り、寒さが身に染みるほど厳しくなってきました。雪が降ったり、シモバシラ（草）に氷の華が  
できたり、冬の知らせが続々と届いています。空気が乾燥し澄んでいるため、いつもより山が近くに見えます。  
村内を歩くと、霜柱を踏む音や鳥の鳴き声が聞こえ、朝の静けさを感じることができます。



地面にできた霜柱



シモバシラにできた氷の華



枝に作られたメジロの巣



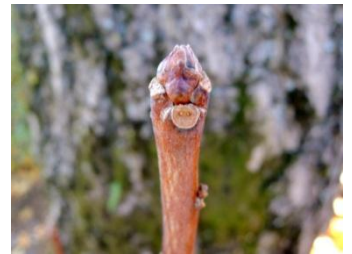
青空に舞うアオサギ



霜が降りた葉



昼間の月



イチヨウの冬芽



カシラダカ



羽を休めているトビ



ウバユリとモミジ



シジュウカラ



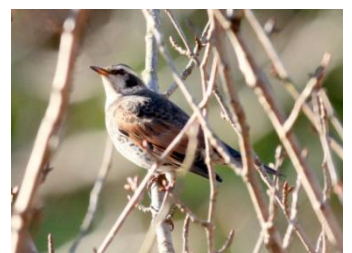
遠くを眺めるヒヨドリ



エナガ



カワラヒワ



ツグミ (冬鳥)

## ★冬の自然とあそぼう★

ふれあいの村には「ウバユリ」という面白いユリがあります

春先には葉が芽吹き、夏に大きな白いうっぱのような花を咲かせるウバユリ。秋には茶色の実をつけます。夏の花と違い、実はあまり目立たないので景色と同化しています。冬になると実が割れて、中に入っているタネが顔を覗かせます。タネは紙のように薄く、実のついている茎を揺らすとたくさんのタネがひらひらと飛び出てきます。ウバユリのタネを飛ばすことは、小さな子どもたちにとってはお気に入りのあそびになるようです。

よく見ると、今だからこそ遊べる「冬の自然」が身近にあるかもしれません。是非、寒さに負けず外へ出て探してみてくださいね。



## ★適応性の高いコケ★

森や川、街中など、どこでも見ることができる「コケ」。実は自然界にとって、コケはとても重要な役割を果たしてくれています。

1つ目として、森の水分を蓄えて降った雨が流れ出るのを防いで森を守っていること。2つ目として、長期の間、二酸化炭素を吸収して溜め続け、適度な水分と空間があることで土に熱が伝わるのを防ぐ断熱材になり、地球温暖化を防いでいること。さらに、他の生き物の棲みかになっていたり、死んでも燃料になったりと様々な活躍をしています。

コケは地球に貢献しながら、自分の生き方を環境に合わせて辛抱強く生きてきました。私たち人間も「生きやすいように」だけではなく、生活をする環境と「折り合いをつけながら」毎日を送っていきたいですね。



▲ジャゴケ



▲マツゲゴケ

### ウバユリの魅力

村にはウバユリ  
と言うユリが  
あります



ユリと言えば  
立てばシャクヤク座ればボタン  
歩く姿はユリの花  
と言うように  
美しいの代名詞です

【ウバユリ名前の由来】  
たくさん説があります。花が咲くころに  
葉(齒)がなくなるから「ウバ」ユリという話が  
一番覚えやすいと思います。

なぜなら



花が終わった後の今の時期  
ウバユリは子どもたちに  
大人気です!

遊べるからです!



こんな風に揺らして  
たくさんタネを  
ひらひら落として

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子・葉青芳

文章：大瀧裕基子・葉青芳 イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村  
で、検索★

と伝えるとウケます



ちなみに大人には  
ニンニクスライスに  
似ています

